

【目的】 子供の排泄の自立への導きに関与するおむつの役割や、快適性を考える時、肌に触れるおむつ素材の着用感と衛生状態を把握し、寝たきり病人、老人用おむつの品質改善や使用法を工夫する為の基礎条件を明らかにする必要がある。そこで、防水素材の透湿性の有無の影響について報告したのに引き続き、肌に触れる素材2種（布と合繊不織布）の着用感、おむつ内湿度、防水素材内部の湿潤等を着装実験を行い検討したので報告する。

【方法】 試料は、不通気合繊カバーと晒おむつ（不通気布おむつ）、透湿合繊カバーと晒おむつ（透湿布おむつ）、不通気紙おむつ、透湿紙おむつとした。更に、透湿布おむつに不織布、透湿紙おむつに晒を組ませたものを加え、肌側素材の影響を調べた。実験方法は、温度 29 ± 1 ℃、湿度 65 ± 5 %RHの恒温恒湿室において、成人女性3名に試料を着装させ、おむつ内温湿度（前部、後部、臀裂部）の経時変化の測定と、着用感についての評価を行った。測定時間は2時間とした。

【結果】 おむつ内湿度を素材別にみると、臀裂部では、不通気紙おむつ（肌側不織布） \geq 透湿紙おむつ（肌側不織布） $>$ 不通気布おむつ（肌側晒） $>$ 透湿布おむつ（肌側晒）となり、紙おむつか布おむつかの影響が大きく、前後部では、不通気紙おむつ \geq 不通気布おむつ $>$ 透湿紙おむつ $=$ 透湿布おむつとなり、不通気群と透湿群との差が大であった。肌側素材別に比較すると、不織布の場合は布の場合より湿度が高く、特に臀裂部において顕著であった。着用感は、総合すると不通気紙おむつが悪く透湿布おむつが良いという評価であった。